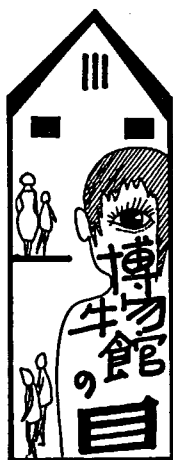


# 岐阜の博物館

▼501-32 関市小屋名  
 (百年公園内)  
 岐阜県博物館内  
 岐阜県博物館協会  
 TEL(05752)8-3111(代)  
 振替 名古屋 6 37909

## 楽天的学芸員の弁

### 学芸活動に創意工夫を!



最近、乗り合わせた電車の中でこんな吊り広告を見かけました。いわく「名古屋にも国立美術館をク」。名古屋にも文化の息吹きをもっと吹きこもうといった趣旨が添えられていました。

簡単に目に見える形としての“文化”の、代表的な具現化が、「博物館」や「美術館」の建設、というのがここ数年來の人々の考え方の主流なのでしょうか。

確かに、私達市井人のすぐ身近に博物館やら美術館、図書館、それに動植物園といった施設があることは本当に素晴らしく、その生活は潤いのあるものになります。

しかし、行政団体は建物を造って、当面の予算と人的配慮をただで、後のフォローが少ない、とはよく耳にする嘆きです。

こんな器だけで、“文化の息吹き”などとはとても言えません。

では、どうしたらよいのでしょうか。器は造ってもらった、人も予算も最小限だけでも配慮された、これでは確かに不平もあります。

でも後は、独特の特別展を企画したり市民との交流を図って、「〇〇博物館にこの人あり」と言わしめる程の学芸員の創意工夫で、この器の叩き方が違ってくるのではないのでしょうか。

ふさわしいかどうか分かりませんが、ここに一つのエピソードを紹介します。

ある外国でのことです。素晴らしい夜、紳士淑女達は思い思いに正装をこらし、音楽会に出

かけ、演奏が始まるのを今か今かと待ち構えていました。やがて、どっしりとしたドレープのカーテンの向こうから重厚な音色が響き始め、聴衆はその素晴らしさに、さすが〇〇フィル・ハーモニーだとばかりの大喝采、カーテンのあがるのを息をこらして見つめておりました。すると、どうでしょう、カーテンの向こうから現われたのは、大管弦楽団ならぬ立派なステレオ装置だったのです。

何が本物であるかを見極めることは、とても難しいことです。昔、聞いたこの話は印象的で、今も時々戒めに思い起こすのです。

人々は、えてして立派な舞台装置やこけおどしにまどわされてしまいます。器だけで、ああ文化なりでは、早計だと思うのです。

しかしまた、大勢の聴衆の耳をまどわし、大管弦楽団にも匹敵しそうな立派なステレオ装置もあるでしょう。

学芸員数が足りなくても、予算が少なくても創意工夫で、大管弦楽団なみの名演奏を聴かせられるよう、嘆くだけでなく努力もしたいものです。いっそのこと、アッとあざむくのも、また楽し?

いずれにせよ、肉薄した音作りをするためには、本物を知ることと、それに近づく為の努力は要りそうです。

予算は潤沢、学芸員数は充分、というのが理想で、また楽なのですが、考えてみれば無い無いの中での工夫、工夫、工夫……が、これまた一つの楽しみなのです。

腕をふるいたいものです。(古田 恵子)

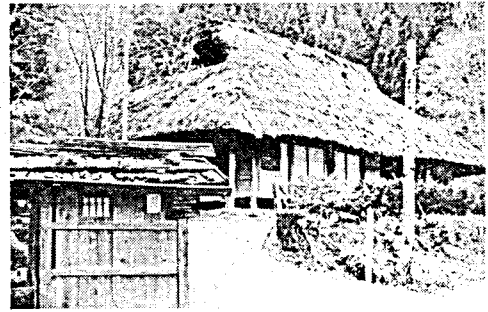
平湯民俗館

▽ 506-14 吉城郡上宝村平湯温泉

平湯温泉のバスターミナルから、安房峠への国道をほんの少し進むと、右側に平湯民俗館があります。享保以前の建物であると推定されている「豊坂家」(上宝村蔵柱字平瀬地内に残されていた木造萱葺入母屋平屋建の農家を移築したもの)がまず目に入ります。民俗学上・建築学上貴重な存在だといわれていますが、どんな点で、どんなつくりが、古くめずらしいのでしょうか。入口の土間がありません。仏間も見当りません。間どりや「戸だな」のめずらしいつくりなどに、ぜひ注目して見学してほしいものです。

この奥には、合掌造りの高桑家があります。中に入って、自由に見学できますから、合掌家屋の内部のつくり、間どりなどを、豊坂家のそれと比較しつつ見学したいものです。館内には、円空上人作の仏像をはじめ、鶏芸(岐阜県の無形文化財)関係の資料、民俗・民具資料、それに昆虫標本等が展示されています。また一番下手には、教筋コンクリートづくりの篠原無然館があります。大正3年に、上宝村第一小学校に奉職後、青年会・婦人会・処女会等の指導啓発に努力され、社会事業の研究、登山指導、工女

(合掌家屋内の鶏芸の展示コーナー)



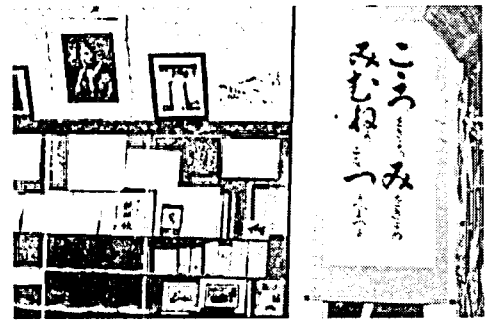
(豊坂家の全景)

組合、購買組合の設立指導と活躍され、大正13年安房峠で遭難逝去(36才)された若き偉人篠原先生の遺品記念館です。きわめて狭いスペースに、びっしり展示されている遺品や書のひとつひとつから、教育者篠原無然先生の若き熱情が伝わってきます。

北アルプスの山々を背後に、自然豊かな温泉郷に位置し、観光客が多数訪れる立地条件にあるだけに、展示資料をうまく生かし、訪れる人々に注目される郷土館、民俗館への脱皮を望みたい。陳列と展示とは同じ次元のものではありません。合掌家屋の中に、昆虫や動物のはく製、あるいは植物標本を使っでの自然内容の展示は、それなりに面白くもあり、また大切なことのはずですが、標本箱を並べるだけで体系もストーリーも無くては、ただの「物」の倉庫にすぎないといえます。合掌家屋、豊坂家の二つの建物は、それ自体が貴重な野外展示物となっているだけに、その内部の展示に、体系と展示学の基礎をふまえた構造化がなされ、いっそう充実した民俗館に育ちあげてくださるよう切望します。

(S.O)

(篠原無然館内の展示のようす)



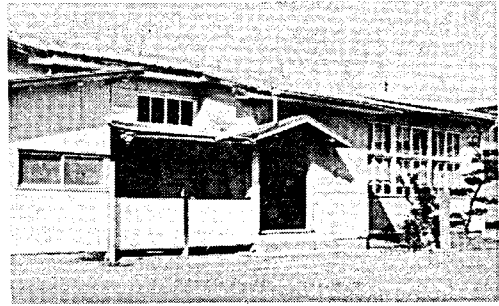
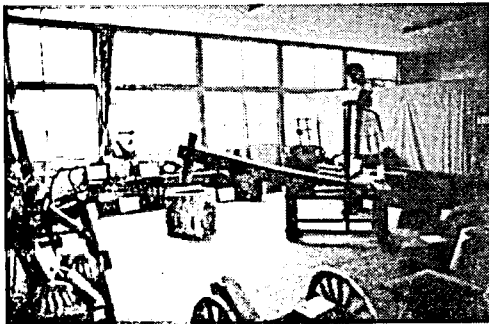
## 松枝小学校民俗資料室

▽ 501-61 羽島郡笠松町長池642  
TEL 05838-8-2551

松枝小学校誕生百周年記念の事業として、地域に残る民俗資料を収集・保存する活動が始まったのが昭和49年、その後も校下の人々の理解に支えられ、寄贈資料も多く充実した収蔵品が見られます。運動場の一角にある旧校舎が使われ、農耕用具・養蚕用具・生活用具・文書関係の4つのコーナーに分類して展示されています。農耕用具の中では、土切りがま・くね田備中・水車などが目を引きまします。この土地が、過去には松枝輪中という土地条件であったことを知らされ、びっくりさせられます。蚕(かいこ)の一生に合わせて養蚕用具が展示されており、作業過程や内容がよくわかるように工夫されています。

お聞きするところによると、収蔵資料は、季節や学年の学習内容によって、教室・廊下等の展示ケースにも持ち出され、子ども達の日々の学習に活用されているとのこと。社会科のみならず、国語科の「たぬきの糸車」「石うすの歌」などにも及び、用具に直接触れることによって、実感的に理解ある場を設けてもいられます。社会科委員会の子ども達による「昼休み解説会」等の行事が生まれたり、すばらしい出版物「むかしの生産用具～老人からの聞き取りの記録」という財産まで残されています。大規模な国公立の博物館が出している豪華な展示解説

(「だいがら」で米をついてみる)

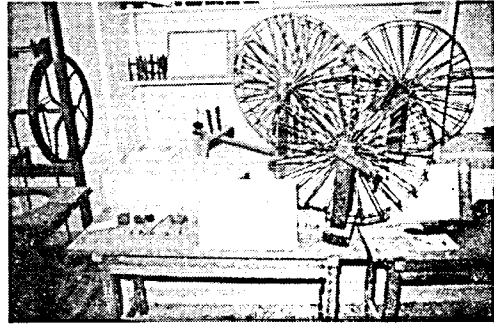


(全 景)

と比較しても、少しも遜色がないし、むしろ心にくいばかりに教育的でしかも質の高い内容となっています。本誌№54、4ページで紹介したとおりです。各市町村立の歴史民俗資料館も数多い中で、これほどまでに民俗資料を生かして活用し、しかもその記録を確かな出版物として残している実績はあまり知りません。

学習の動機づけには、外的なものとの内的なものがあります。入試があるからとか、ほうびをあげるからとかで学習を強いるのではなく、人間の好奇心をくすぐることこそが、主体的な学習への出発点です。「もの」があること、それを生かして使うことは、学校教育現場ではきわめて重要なことです。歴史・民俗資料のみならず自然物までも含めて、小さいながらも「学校博物館」は、今後より多くの学校現場で作られ運営されるべきだと思われます。教科書を教えるのではなく教科書で教えるためには、ことに社会科や理科の教師にとっては、地域の実態把握と学習に活用できる資料の収集・保管・活用は大きな責務といえます。入館料 無料、日曜日・年末年始、学校特別行事日は休館です。(S.O)

(養蚕コーナーの糸車)



# 博物館の関係組織に望むこと

(財)野間教育研究所 伊藤 寿 朗

## 〔I〕博物館の急激な増加と大衆化

1960年代末以降の博物館ブームが続いている。個人による小規模館も含めて、1977年末では2572館の博物館が人々に公開されている(倉内・伊藤・小川・森田編『日本博物館沿革要請』講談社1981年)。その後も年間100館以上の博物館が開館しており、3000館以上の博物館数と、年間2～2.5億人の入館者数を相対することができる。

この15年程の間に集中して現われた激しい変化は、戦後博物館の構造的変容ともいべき性質のものであった(伊藤・森田編著『博物館概論』学苑社1978年P.P 181～199)。戦後の博物館を規定し、条件づけてきた枠組が変容してきたことの反映であり、またそれに代わる新たな枠組への模索の過程でもある。

かつては博物館があるということだけで人々に価値を主張できた時代であるが、現在では相対化されてきている。博物館のどのような活動がそして人々の生活のどのような側面で意味をもつのかという、価値の内実が市民によって吟味され、検討される時代となってきている。博物館数の急激な増加を背景として、博物館の大衆化が進行してきているわけである。

一方的な啓蒙の対象としての市民ではなく、市民の力量形成に必要な博物館の役割が求められており、質のレベルの検討という点では、博物館と市民の相互の関係という枠組が課題となってきた。博物館のあり方を考える際の座標軸がかわってきたといえよう。

## 〔II〕新しい課題

博物館の急激な増加と大衆化に対応して、博物館の課題も大きく変化してきている。くわしく述べる余裕はないが、この15年程の経過のな

かで生まれてきた新たな課題としては、以下のような問題が考えられる。

第一に公権力の課題という点では、収集・保存を目的とした文化庁の博物館行政と、利用を目的とした文部省の博物館行政という二元化を含みながら、行政施策の軸は学習機会提供に一面化されてきている。中教審答申「生涯教育について」(1981年)に代表されるが、民間文化産業のものも含めて、教育というものを学習機会の提供に限定していくという方向である。市民の力量を育んでいくということではないため、それは教育事業のイベント化、文化行政の名による博物館の教育委員会以外の所管、そして大規模な民間委託化の進行を生みだしてきている。

第二に利用者・市民の課題という点では、市民自らが資料を収集し、博物館を創設するという“草根博物館”の伝統の拡がりと共に、市民自身が資料を調査研究し、収集し、さらに“一日博物館”というような展示会や観察会などの事業を企画・実施しながら博物館の構想をまとめ、自治体の責任として公的に保障していくことの必要を求めていく運動が生まれてきている。博物館づくり運動の大衆化と高度化である。

第三に博物館関係者の課題という点では、博物館数の急激な増加と共に「博物館人」というような運命共同体的幻想はすでに喪失し、共通課題の分化が著しく進んできている。学芸職員に関しても階層分化が生まれており、①資料の価値を発見し、生みだしていく調査・研究的職務は管理型学芸員が担い、②資料の価値を保存し、また活用していく技術的・教育的職務は下請け型学芸員が担うというシステムが固定化される傾向となってきた。

第四に活動内容上の課題という点では、一方

では、市民との共同調査・共同研究をはじめ、継続的な長期の蓄積を必要とする地域課題への取り組みが定着してきていると共に、しかし他方では、その場限りの人気を目的とした教育事業のイベント化が進行してきている。つまり博物館のディズニーランド化である。

第五に理論的課題という点では、博物館を目的によって、①地域志向型、②中央志向型、③観光志向型と区分したうえで、各々に固有の方法、内容をつくりあげていこうということから生まれてきた地域博物館論。また旧来の美術館観（第一世代）の批判として生まれた現在の美術館観（第二世代）、それを越えていく新しい美術館観（第三世代）の課題を実践的項目に即して整理した第三世代の美術館論（竹内順一氏の提唱）など、対象を個別化しながら、それだけに具体的指針となりうる問題整理が進んでいる。

### 〔Ⅲ〕 関係組織の問題

以上のような各課題毎について、また各分野における新たな試みの登場と定着の可能性などについて、博物館の関係組織はどのように取り組んでいるのだろうか。残念ながら、現実の激しい変化に対して関係組織の大幅な遅れがあるといえよう。

博物館の課題に取り組むことを目的とした関係組織は、国際的なものから小グループの集まりまで各レベル、各目的に応じて多様なものがあるが、大きくは館園を加入単位としたものと、個人を加入単位としたものとに分けられる。関係組織の大部分は館園を構成メンバーとした団体単位のものを中心であり、個人単位のものも学会と任意の研究会などごくわずかである。しかもその個人の大部分は博物館職員である。博物館には多様な関係組織がありながら、実はその選択技はきわめて限られているといえよう。

関係組織の場合、一般的には、〇〇博物館の△△さんであるということが前提であり、その〇〇博物館がなければただの人である。したがって、ただの人である市民が博物館への問題関

心を深めることを目的に関係組織に参加しようとしても、ほとんど困難であり、また積極的な呼びかけもしていない。逆にたまたま役所の移動で館長となれば、自動的に関係組織の役職に就任するなどの例も多い。

各館園を構成単位とし、その職員に限定するという閉鎖的性格をもちながら、しかも職能組織としての拘束性もないとなると、多くの場合、管理職の連絡・親睦組織化していくのはいたしかたない現実である。

### 〔Ⅳ〕 開かれた関係組織

県内博物館のガイドブックは、県教育委員会や県単位の博物館協会が編集するのが当然であったが、この紹介・連絡の役割を市民が担う例も登場している。青山ハルナ『博物館のある町 — 群馬のミュージアム』（あさを社1983年）、大澤 巖『神奈川の博物館』（かなと出版1980年）など、ルポルタージュによる立派なガイドブックである。この他にも、博物館の職員ではない市民が、各地の博物館を巡り、相互に比較検討しながら内容を蓄積し、問題を相対化してきている例は多い。その成果を発表する機会が皆無に近い表面に現われにくいだけである。

県単位の博物館協会の場合、普通は団体を構成単位としながら、実質は個人が中心という例が多い。団体と個人という二つの側面をもつところに、問題があると共に、また可能性も残されている。各地で生まれている新しい課題に取り組んでいくためには、博物館の職員に限定された枠としがらみを越えた開放性が強く求められているといえよう。

市民に開かれた博物館の活動は、いま静かに、しかし確実に蓄積されてきている。その成果を相互に交流し、また共有していくためには、市民に開かれた関係組織こそふさわしい。

岐阜県博物館協会は、全くフリーな立場の個人会員を包含している点で注目され、地域に根づいた博物館活動の発展のために、期待するところ大である。

## 郷土歴史館で思うこと

可児郷土歴史館 館長代理 渡辺辰巳

可児郷土歴史館は、市立の歴史資料館であり市で運営されているがその成り立ちはすこし独特であったと思う。即ちこの地区久々利の財産区が母体となり、市の協力と指導を得て建てられたものでここに定められたのは次のような理由からであった。

- (1) この城下町久々利の殿様千村氏の屋敷跡があること。
- (2) 日本一といわれている大きな銅鐸がこの近くで発掘されていて、可児市の中でも久々利の宮跡もあることが魂のふるさととしてふさわしいこと。
- (3) 人間国宝になられた荒川豊蔵氏は現在もこの久々利に住まれ志野の制作にいそまれているがその生涯をかけられた志野のふるさはまさにこの地の大平、大萱であったこと。
- (4) 大平・大萱の古窯群からの古窯資料は実に貴重で散逸させては惜しいこと。

等の理由によるものであった。

わたくしは教員生活40数年の後、この管理をまかされ既に4年の歳月がたった。世間のことには暗い先生バカの一人ではあるから最初は戸惑うことも色々あったが、この第二の人生で大変勉強もさせてもらった。以下寸感をかいてみる。

## 〔1〕郷土館は誰のもの？

この郷土館の参観者をしらべてみると、東京を中心とする関東方面、大阪を中心とした関西方面、敦賀・舞鶴を中心とした北陸方面の来客が70%をしめ、市内の人は30%である。遠くの人ほど熱心、且造詣の深い人が多く、少し説明をして差し上げていてもこちらがたじたとする位よく研究をしておられる。市内の人はそれほどでもなく、特に毎週火曜日、市の無料バスでこられる人は「こんなものか」といった表情で簡単に見過ごしていかれる。何か淋しい気がする。郷土のものをよくたずね、魂の故里を

深くたずねることに意義があると思うのだが、どんなものだろうか。それとも無料ということが、かえって悪いのだろうか？

〔2〕「教うるは学ぶのなかばなり」は本当だった。来館者のお役に少しでもたてたらと思って知る限りの説明をしてさし上げるには不確かな事は言えないし、自分の言っていることに、ふと疑問が湧くこともあった。地質のこと、歴史のこと、晩学ながら本をひもとくことが多くなった。しらべてみるとふるさと可児に自分の知らないことはまだまだ多くあり、反対に底の知れない深さをもつ可児の地に愛着が増してきた。

## 〔3〕「ここも社会の窓」

可児駅から足の便がわるく、タクシーで片道1,300円もかかるので、来てくれた人には、なるべく親切にしてあげようというのが私の再就職の時の決意であった。さしあげた一杯のお茶に憩われ、心をほぐらせて色々話して下さる話は汲めども尽きぬあたにかみがあり、百人百いろ、各地に住む人々のさまざまのくらしが偲ばれていつも勉強になった。外見だけでわからない喜びや悲しみを秘めた人間の哀しさを思ったことも多くあった。それでも「あの時のことが忘れられない」といって手紙をくれる人も時々あってそういう時は実に嬉しい。

## 〔4〕少年を育てるのはいつ迄も私の夢

中学・高校生、時には短大生が夏休みの宿題やレポートの資料づくりに来る時がある。又そのつもりでなくても、たまたま見て見たものにひかれて調べてそれを提出することがある。そういう時は、なるべく親切に、役に立つことを話してやったり、又興味をもつように説明してやったりしてきた。その為それ以来、研究するようになったという子もいるし、レポートが入賞したという子もある。これを機会に郷里を深く愛する人々、とくに久々利宮跡の大椋の木のように青少年が大成してくれることはいつ迄も私の願いである。

## 案内

### 博物館問題研究会への入会案内

博物館問題研究会は、現在の博物館がかかえる課題に関心のある者なら、誰でも参加できる自主的研究会です。1970年11月1日の発足以来、月例会、地方例会の活動を中心に、博物館の現状分析、現状認識、博物館学理論・技術など、博物館をめぐる広範囲な問題に取り組んでいます。会員には、月刊のニュース、会報が送られてきます。現在では、関東方面に会員が多く、活動の中心も東京周辺部になりがちですが、博物館の増加とともに、地方の博物館現場で、悪戦苦闘している学芸職員の参加も目立って増えてきました。科学的で進歩的な博物館活動のあり方を求め、実践に裏付けられた博物館学理論の確立をめざして、自己研修のためにも、ぜひ研究会員になられますよう案内します。

※事務局▽ 231 横浜市中区元浜町 3-21 関進ビル404号 伊藤 寿朗 TEL 045-201-7570

### 全日本博物館学会への入会案内

館園と個人会員より構成されている「日本博物館協会」とは違った立場から、つまり純粹に学問体系としての「博物館学」の追求・確立をめざし、個人を対象とした全国組織の学会です。学会ニュース、学会誌などが発行され、研究発表会、談話会等が開催されています。3月24日には、名古屋市科学館にて「展示の更新とその環境整備」とのテーマのもとに、日本モンキーセンター広瀬鎮氏他4人の話題提供があり、地方での談話会も、今後ふえるはずです。学会への加入に関しては、下記へ連絡して下さい。

▽ 150 東京都渋谷区東四丁目 10番28号  
国学院大学博物館学研究室 全日本博物館学会 TEL 409-0111-内線 231

## ≡ 図書紹介 ≡

### 新説博物館学

間多善行著 ジー・ツー発行

博物館学という用語は確かにある。けれども、それは統一的な理念によって体系づけられた学問になっているだろうか。いやしくも「学」と銘打つ限りは、その学が他の学と区別される点、則ちその学が他のいかなる学とも共存しない特徴を厳密に規定できなければならない。そうした視点から、独創的な研究によるユニークな発表、それが本書です。A5版・146ページ、定価1,800円 ㊦ 240円。一般書店では扱われていませんので、申し込みは下記へ、  
▽ 102 東京都千代田区九段北 3-2-11 九段コーポラス 304号、ジー・ツー TEL 03-268-0248 (代)

### 原稿募集のお願い

本誌は、年4回の季刊です。県内ニュースとして、各館園の行事についても、できるだけ事前に載せたいと思っていますので企画案等決まりしだい電話でもご一報いただき、情報をお寄せください。

その他、特別に締め切り日は設けていませんので、気軽に下記のような原稿をお寄せいただけるようお願いいたします。

◎博物館人の声……博物館及びその類似施設等にたずさわっている方々の実践上の声です。日頃の苦労話、努力されていること、入館者と接しての感想等ご自由にお寄せください。約1ページ分です。

◎博物館活動の実践……資料収集・整理保存、調査研究、教育普及活動等あらゆる分野にわたる理論及び実践について、本誌2ページを目当てにご寄稿ください。

◎収蔵資料紹介……新収蔵資料やこれまでの館蔵品の中で、価値の高い収蔵資料に焦点をあて、その詳しい紹介報告文をお寄せください。約1ページ分です。

## ≡ 県内ニュース ≡

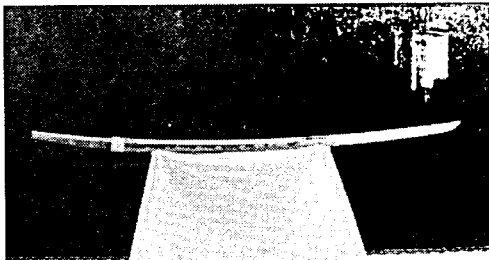
### 県博特別展

#### 「濃飛の戦国武将」へどうぞ

関市小屋名の岐阜県博物館では、4月24日から6月8日まで、齋藤妙椿の時代から織田信長の時代にかけて、岐阜県で活躍した戦国武将16名を紹介する特別展を開催します。戦いに明けくれた武将たちの日常のくらしはどんなものであったのか、中世遺跡からの出土品資料も展示します。そして、わが故郷、美濃国と飛騨の国が、中世から近世にかけて果たした意義を、多少なりともつかんでいただけることを念願して企画され、会期中には次の三つの行事も行なわれます。ぜひともご参加下さい。

※講演会 5月20日(日) 美濃の戦国武将 講師 勝俣 鎮夫氏、※人文教室 6月3日(日) 濃飛の戦国時代 講師吉岡 勲氏 ※人文移動教室

5月13日(日) 戦国武将ゆかりの寺を訪ねて  
お問い合わせは岐阜県博物館教育普及係まで。  
休館日は 5/7 5/14 5/21 5/28 入館料は、  
一般 250円(200円) 高大生 150円(100円)  
小中生 80円(50円) ( )は団体



(秀吉が家臣に与えた太刀)

### 羽島市歴史民俗資料館完成

市制30周年記念事業のひとつとして、総工費7,500万円で建設されたもので、羽島市竹鼻町丸の内に完成、3月8日に完成式が行われました。鉄筋コンクリート造り、一部二階建て、延べ約485㎡、1階が常設展示室で、2階に研修室、

収蔵庫が設けられています。展示内容は、郷土の偉人、輪中、産業、生活と道具のコーナーに分かれ、一般公開は4月3日からです。ぜひお出かけください。

### 新加入館園

山岡町郷土史料館 ▼ 509-76 恵那郡山岡町  
下手向1805-2 TEL 05735-6-3611

松枝小学校民俗資料室 ▼ 501-61 羽島郡笠松  
町長池642 TEL 05838-8-2551

御嵩町立郷土館 ▼ 505-01 可児郡御嵩町御  
嵩1397の1 TEL 05746-7-1245

### 岐阜県の博物館要覧(仮称) 編集作業に

昨秋からお願いしました原稿が、続々と寄せられています。これを機に、協会に加入して下さった館園も多くあり、会員館園数も増加中です。原稿の中には、印刷物を切り抜いた写真がそえられたものもあり、印刷原稿には不向きですので、紙焼き写真の提出を再依頼したところもあります。原稿未提出館園とともに、大至急送付ください。

#### 編集後記

- ◎どうにか年4回の発行責任だけとはとることができました。形式・質ともにマンネリ化していると自責の念にかられています。
- ◎新しい年度のスタートとともに、新しい企画で新鮮な機関誌づくりをと念じているのですが、会員諸兄のお知恵を拝借したいものです。こうしたら、あゝしたらと、本誌へのご提言をどんどんお寄せください。
- ◎新説博物館学、ショッピングな目次内容です。いろんな立場から、様々な博物館学が出され、お互いに討論を重ね、実践を積みあげるからこそ、博物館の目にあるように未発達な学芸職域の楽しみです。(SO)